

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みどりのき		
○保護者評価実施期間	R6年 10月 21日		～ R6年 11月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	R6年 10月 21日		～ R6年 11月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの満足度が高いこと	お迎え時などに保護者と密に連絡を取り、常に情報を共有し、利用者さんに寄り添った支援を提供している。	今後も利用者や保護者からのフィードバックを定期的に収集し、支援の改善につなげる仕組みを構築する。個々の障害特性の理解に努め、様々な場面を想定しながら支援できるように努めていく。
2	個々の利用者が自己選択し、意思決定できるように一人ひとりに応じた支援をしていること	日ごろから利用者の様子を観察し、職員間で情報共有に努めている。一人ひとりの話を傾聴し、自己選択できるように日々の活動の中において支援している。	活動の中で利用者が自己決定でき、行動できるような環境作りや支援プログラムを増やせるように努める。
3	生活空間における安全面や衛生面等においては、十分に気を付け、活動内容に合わせた配慮等を行っていること。	衛生面では清掃の手順を明確化し、高い意識を持って取り組んでいる。また、活動内容によって空間を使い分けることで、利用者がより快適に活動できるよう配慮している。	定期的な安全確認チェックリストを作成し、スタッフ全員が意識的に点検を行う体制を強化する。 活動ごとの空間利用をさらに細かく分析し、利用者の特性やニーズに応じた最適な環境づくりを進める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関わりの少なさ	障害の特性上、地域住民と直接的な関わりを持つことは難しい利用者が多い。	公共交通機関の利用や地域の公共施設の見学等の活動プログラムを検討し、地域との関わりを持てるような機会を提供する。 法人内の障害福祉サービス事業所と合同で開催する行事を今後検討する。
2	家族等が参加できる研修を行っていないこと	コロナ禍以降、ペアレントトレーニングや家族向けの研修会等を開催していない。	コロナ禍以降開催できていなかったペアレントトレーニングを開催し、参加できなかった保護者にも内容をお伝えできるように努める。 面談会を開催し、療育の進捗状況や児童の事業所、家庭での様子を共有する場を設ける。
3	職員の意見等を把握する機会が少ないこと。	法人内の他事業所と合同で全体的な会議は行っているものの、放課後等デイサービス事業所内での会議や意見交換をする機会が少なかった。	チームでの意見交換や支援の方向性について話し合う時間の確保し、事業所の方針や支援についての情報共有に努める。